

平成 22 (2010) 年度「NGO 長期スタディ・プログラム」最終報告書

提出日：2011 年 3 月 15 日

氏名：白木朋子

所属団体：特定非営利活動法人 ACE

受入先機関名(所在国)：Agro Eco-Louis Bolk(ガーナ)

研修期間(全体)： 2011 年 2 月 14 日 ~2011 年 3 月 9 日

研修テーマ：付加価値のある農業とマーケティングを通じた効果的な貧困削減と住民のエンパワメント

全体研修目標：

- 1)オーガニック農法および農民への指導方法に関する知識・スキルの習得
- 2)オーガニック、フェアトレード等の認証制度、手続きに関する知識・スキルの習得
- 3)オーガニック農産物の貿易および企業との連携推進に関する知識・スキルの習得
- 4)研修受入団体との連携強化、その他関係者との人間関係、ネットワークの構築

具体的な研修内容：

- ・受入団体が実施するカカオの認証制度（レインフォレスト・アライアンスほか）に関する指導員育成研修（TOT）へのオブザーバー参加と指導員が実施するトレーニング実演研修の見学
- ・認証制度の手続きに関するスタッフからのレクチャー
- ・プロジェクト実施地での農民指導者のフォローアップ活動への同行
- ・フェアトレード団体への訪問とフェアトレード認証の普及に関するヒアリング

研修の成果：

- 1．認証制度に関する基礎知識と農民への指導方法について（目標 1、2）

本研修では、児童労働の削減や貧困削減の一手段として、途上国で生産される農産物に付加価値をつけて販売するための認証制度について学ぶことを目的とした。

当初本研修では、オーガニック、フェアトレードの認証制度を中心に学ぶことを想定していたが、今回オブザーバー参加した現地での指導員育成研修では、それ以外の 2 つの認証制度である、インフォレスト・アライアンスとウッツ・グッドインサイトがテーマであったため、認証制度の対象を広げて学ぶこととした。それにより、各認証制度のコンセプトや要求事項の内容、重点ポイントの比較をすることができ、認証制度全体について想定よりも幅広い知識を得ることができた。

カカオの認証制度の種類と特徴

認証の名称	マーク	重視するポイント・特徴
1) フェアトレード (Fairtrade)		公正な取引 フェアトレード最低価格の保障
2) レインフォレスト・アライアンス (Rainforest Alliance)		野生生物保護 生物多様性保護
3) ウッツ・グッドインサイド (UTZ Good Inside)		トレーサビリティ よりよい農業慣行
4) オーガニック (Organic)		化学薬品の不使用 環境保護

各認証制度にはそれぞれ特徴があり、基本原則に基づいて基準が設けられ、環境面、労働面に関する細かい要求事項が定められている。これらの要求事項をどのように生産者に伝え、知識やスキルを習得してもらい、要求されているような「よい農業慣行」を実行することができるか、現場レベルでは非常に水準の高い実践が求められることを実感した。

オブザーバー参加した研修は指導員育成を目的したもので、研修の一環として、研修参加者が農民指導員に対するトレーニングを実際に実施することもカリキュラムに含まれていた。そのため、はじめの1週間の研修では、ゲームなどの参加型手法を多く活用し、実際に指導員が農民のレベルでトレーニングを行う際に、文字の読み書きができない農民でも理解しやすいように、また楽しみながら学ぶことで学んだことが記憶に残るような工夫がされていた。実際の研修実践を想定したロールプレイも行われた。参加者を9つのグループに分け、生物多様性、廃棄物処理、病害虫予防・駆除、労働安全衛生、児童労働などの、認証に求められる主な要求事項の各トピックを1グループ毎に割り当て、各グループが与えられたトピックに関するトレーニングを実演した。レインフォレスト・アライアンスにおいては、特に環境面に関する要求事項が多く、自分自身の専門外であるため、カカオの病害虫の管理方法や生物多様性など、具体的な要求内容について理解を深めることができたのはよかった。児童労働については、研修テキストやロールプレイの中での説明があまり適切ではなかったと感じたため、オブザーバー参加者という立場ではあったが、研修中に短い時間をもらい、補足として児童労働の基本的な考え方について参加者に説明することができた。これにより、研修参加者の児童労働に対する理解、認識を深めることに貢献できたのではないかと思う。

認証取得までのプロセスにおいて核となる活動は、認証取得の対象となる農産物の生産者に対するトレーニングの実施、内部統制システムの構築、内部監査および外部監査の実施で、特に生産者へのトレーニングと内部統制システムの構築が認証制度の精度を高める上では重要なポイントであることがわかった。

今回の研修では、受入団体がプロジェクトを実施している村に滞在し、スタッフが行う指導員のフォローアップに同行してカカオ農園を巡回し、農民指導員による農民へのトレーニングの成果が実践されているかどうかを見ることができた。プロジェクトのスタッフと農民指導員が、トレーニングを受けた農民と一緒にカカオ農園を周り、研修で学んだ方法で農園管理がされているか、農園内で基準の違反になるような行為は行われていないかなどを確認していた。この時巡回したある農園では、ビニール袋や洋服の切れ端などゴミが散乱しており、廃棄物処理の基準に違反するとして、改善するよう指導をしていた。また、カカオによくみられる病害の特定の仕方とその後の対処法についても、実際に農園を歩いて病害の症状を見つけ、対処法を実践して見せていた。

実際には、ひとりひとりの農民が、認証制度が要求するレベルの技術や農園管理の知識を身につけて実践することはかなりハードルが高いことであると感じた。しかしだからこそ、アグロ・エコがプロジェクトで行うような、きめ細やかなフォローアップがとても重要であることを実感した。

今回は、認証制度の基本的な知識と、認証を取得するにあたっての農民への周知および実践的なトレーニング方法の習得を主な研修目標にしていたことと、現地での活動のタイミングがあわなかったため、認証取得の根幹となる内部統制システムの構築や内部監査については、実際の活動を見学することができなかった。受入団体とは同じ活動地域で活動しているため、今後チャンスがあれば、内部統制システムや内部監査の方法についても、もう少し学んでみたいと思った。

2. 企業との連携による認証制度の普及について（目標3）

日本でもフェアトレードやオーガニックは最近普及し始めているが、市場全体に占める割合はごくわずかで、関心のある企業、消費者もまだあまり多くない。これに対してヨーロッパやアメリカでは、認証マークをつけた商品がかなり市場に出回っており、商品にマークがついているかどうかの商品選択のひとつの基準になりつつある。ガーナの認証制度の研修においても、生産者が認証を取得することの意味として、「消費者からのニーズ」を一つの理由としてあげていた。

チョコレート業界においては、イギリスのキャドバリー社とアメリカのマース社が、今後は自社のチョコレートの原料として、フェアトレードやレインフォレスト・アライアンスなどの認証付きの「持続可能なカカオ」しか調達しない方針を打ち出した。この流れに応じて、キャドバリー社は農民のトレーニングに出資して認証取得のサポートを行ったり、カカオ買取業者自体が認証を取得するために、スタッフや農民を育成するという動きが出てきている。

ガーナでは、NGOが企業の委託を受けて、農民トレーニングプログラムや、スタッフの指導員研修(TOT)を実施しており、企業と対等な関係で連携していることがわかった。チョコレートメーカーはそもそも、カカオの生産者と直接関わることを仕事としておらず、またカカオ買取業者も生産者の育成は業務の範疇外であるため、認証制度を活用して生産者の経済的自立やエンパワメントに取り組んできたNGOと手を組むことは合理的な選択であると言える。認証制度を活用することが企業にとってはビジネスメリットになり、NGOにとっては生産者の経済的自立を助けることができるというメリットがある。互いの利害が一致するところで、専門領域をうまく活用して役割分担することで、よい連携の形ができている。これは日本のNGOが企業との連携を考える上で非常に参考になる。

イギリスにおいては、認証制度は「サステナビリティ」の観点から企業が積極的に取り入れるようになってきている。マークは信頼性を担保するものとして企業は評価しており、一般消費者のフェアトレードマークの認知度は70%に上る。イギリスでのフェアトレードマークをつけたチョコレートの市場シェアは10%で、フェアトレード団体のフェアトレード・ファンデーションは、2015年までに市場シェアを30%にまで広げる目標をたてて、戦略を練っている最中である。課題は需要と供給のバランスで、この目標を達成するには、カカオ生産地での農民の育成をもっと手広く実施していく必要がある。ガーナでのトレーニングの実践を見学した限りでは、農民の訓練や農民を育成する指導員の訓練には、かなりていねいに取り組む必要があり、時間がかかるため、認証を取得したカカオ豆の供給量が将来的な企業の需要に耐えるのか、また企業が認証制度を導入するスピードに、現場で認証基準に適合する生産活動を行う農民を育成するスピードが追いついていくのかが懸念される。ただし、近い将来にはカカオの供給量が足りなくなると予測される中で、よりよい農業慣行を進めることは生産効率と生産量をあげることに寄与することはまちがいないため、持続的な原料調達を考えれば、企業にとってはここに投資する価値が大いにある。認証基準に適合した農業慣行を行なうことは、環境を守ると同時に生産者の労働環境を

守り、かつ生産性や収量をあげて、生産者の経済的自立を助けることにつながるため、途上国の貧困に苦しむ生産者の支援を行う NGO にとってもメリットがあると考えられる。認証制度を通じて企業と NGO がうまく連携することが、途上国の農業の発展や貧困削減につながる可能性が大いにあることをこの研修で実感することができた。

3. 受入団体との連携強化、ネットワークの構築について(目標 4)

3週間という短い研修機関であったが、受入団体との連携強化、その他ネットワークの構築もある程度達成することができた。受入団体のスタッフには、さまざまな形で研修のサポートをしてもらい、共有してもらった経験などから多く学ぶことができた。研修に参加していたカカオ買取業者の認証普及プロジェクトの担当者や現場で農民の指導を行うスタッフやフェアトレードの普及に取り組む NGO とも知り合うことができたことは、大きな収穫であった。

本研修成果の自団体の組織強化や活動の発展への活用方針、方法：

- ・ ガーナで実施するプロジェクトでのカカオ農家へのトレーニングにおいて、認証基準を意識したカリキュラムを導入したいと考えている。
- ・ 研修受入団体は環境面では専門性が高いが、児童労働など社会面については当団体の方が専門性が高いことがわかったため、プロジェクトの実施地において役割を補完しあうことができれば、より効率的なプロジェクト運営ができると思った。
- ・ 認証制度のしくみについて理解が深まったため、認証制度の導入メリットについてより自信をもって説明できるようになった。企業へ認証を取得したカカオ豆の調達を売り込む際に、認証制度や欧米企業の導入事例に関する知識を活用したい。
- ・ 団体内で「児童労働がないことを認証するマーク」の開発について昨年度から議論を少しずつ始めているので、研修で学んだことを団体内で共有し議論の材料にしたい

本プログラムや事務局側に対する提案、要望等：

- ・ 本プログラムは、団体のニーズに合わせてスタディ員が研修内容をデザインし、受入団体を自由に選べること、またそのための費用を支援いただける点が大変魅力である。このようなすばらしい研修プログラムはぜひ今後も続けていただきたい。それにより NGO 職員の能力強化が進むと思う。
- ・ 本来は長期(3~6カ月)の研修プログラムであるところ、短期の追加募集ということで応募することができた。長期プログラムとあわせて、今回のように短期で実施できるプログラムを用意できれば、NGO の多様な研修ニーズに応えることができるのではないかと思った。
- ・ アフリカ諸国は日本から直行便で行けるところはないため、トランジットの際のホテル代は、滞在費に含めず、渡航費に含めて枠を広げていただく方が、滞在費に不公平感がでないように思う。
- ・ 空港までの国内移動費については、少なくとも主要な交通手段の往復分の費用がカバーされるようにしていただけるとよいと思う(今回リムジンバスの往復分が上限を超えてしまったため)。また、地方の NGO が本プログラムに参加する場合は、国内移動費がもっとかかるのではないか。それも考慮できるとよいのではないか。

その他：

(総合的に研修成果を理解するために、写真類、スタディ員が受入先機関に提出した報告書類等があれば、あわせて添付願います)



指導員育成研修にて(保護具の付け方)



研修参加者によるトレーニング実演(安全衛生)



グループディスカッションに参加



研修参加者によるトレーニング実践



病害駆除の方法を指導するアグロエコのスタッフ



フェアトレードチョコレートを宣伝するスーパーの表示

以上